

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381152

研究課題名(和文) 学力格差生成の比較社会学的研究 学校外学習時間に焦点づけた香港、上海との比較

研究課題名(英文) Comparative Sociological Study of Inequality in Student Achievement: Comparison of Students' After-School Study-Time in Urban Districts of Japan, Hong Kong and Shanghai

研究代表者

垂見 裕子 (Tarumi, Yuko)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号：10530769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本、香港、上海の都市部の小学生の学校外学習時間に関する比較調査を行うことにより、家庭背景による学校外学習時間の格差、その格差生成メカニズムを明らかにした。(1)日本の都市部では家での学習時間に階層差があり、上海都市部と比べてもその程度が大きい一方、香港都市部では家での学習時間に階層差がない。(2)家での学習時間に対する階層効果の大部分は通塾に媒介されており、日本都市部特有のメカニズムである。(3)日本都市部では通塾が家での学習習慣に及ぼす効果は、子どもの学習態度に一部媒介されるが、香港・上海都市部においては、子どもの学習に対する態度は、家庭の経済的・文化的資本や通塾の影響を全く受けない。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine whether how much a student studies at home is determined by one's family background, and what is the pathway that explains the relationship between family background and student's study hours at home. My findings are as follows: (1) In urban Japan, family background has a strong effect on student's study hours at home, and this effect is large compared to urban Shanghai. In urban Hong Kong, family background has no association with student's study habit at home. (2) The effect of family background on student's study hours at home is largely mediated by student's participation in shadow education and this pathway is unique to urban Japan. (3) In urban Japan, the effect of shadow education participation on student's study hours at home is partly mediated by student's attitude toward studying. However, in urban Hong Kong and Shanghai, student's attitude toward studying has no association with family background or shadow education participation.

研究分野：教育社会学 比較社会学

キーワード：学校外学習時間 階層 塾

1. 研究開始当初の背景

1998年に学習指導要領が改訂されて以後、日本の教育界では学力低下への危惧が表明されるようになり、2004年に第二回 PISA 結果が発表されると、「学力低下」論争はメディアをにぎわすようになった。学力低下の要因の一つとして、家庭での学習時間の減少が実証され、問題視されるようになった。一方、2000年代から、教育社会学では学力の水準の問題のみならず、家庭的背景による学力格差に警笛を鳴らす研究結果が示され、そのような中で学校外教育投資の差異、通塾の程度が学力格差の規定要因として注目をあびるようになった。

このように従来の研究では、家庭での学習と塾での学習は別々に議論されることが多かったが、申請者は以下の理由から、併せて検討することが必要と考える。(1) 国際比較の観点から、一方のみに注目した場合、児童生徒の学校外の学習量の真の比較をしていない可能性がある。例えば塾が普及している社会では、家庭での学習時間が必然的に短くなることも考えられる。(2) 教育格差の観点から、一方のみを検討することは、格差の過小評価をする可能性が考えられる。例えば、家庭での学習も通塾も行っていない児童生徒は、学力の面において二重に不利となる。

(3) 塾での学習は、親の富と願望が子どもの進路を決定づけるペアレントクラシーの概念や、親が子どもの学校的な文化資本を高め、学校での成功を目指そうとする親の教育戦略の概念で分析されてきたのに対して、家庭での学習は明確な概念的枠組がこれまでなかった(例外は努力の指標として捉えた荻谷(2000))。

香港、上海を比較対象とするのは、試験による選抜(受験競争)が厳しく、学業達成と職業地位の関連が強く、少子化によって一人当たり子どもへの教育投資が高いという日本との共通性がある一方、香港、上海は、家庭背景の不利な子どもの学力が相対的に高いという特異性がある。香港、上海との比較により、日本ではなぜ家庭背景により生徒の学習習慣が異なるのかを明らかにできると考える。

2. 研究の目的

本研究では、社会学的見地から、日本・香港・上海都市部の小学生の学校外学習時間に関する比較調査を行うことにより、家庭背景による学校外学習時間の格差、およびその格差生成のメカニズムを明らかにすることを目的とする。家庭における学習と塾における学習両方を「学校外学習」と定義することにより、より国際比較可能なデータを構築するとともに、家庭での学習も通塾も行っていない二重に不利な層(学ぶかまえを習得していない生徒)に焦点を当てる。香港、上海との比較を通して、日本ではなぜ家庭背景により生徒の学校外学習時間が異なるかを明らか

にし、近年日本で問題視されている学力低下、学力格差、家庭の教育力の低下などの問題に対して、具体的な政策・施策を提言することが期待される。

3. 研究の方法

ミクロレベルの量的データと、マクロ・メゾレベルに焦点を当てたインタビューを相互補完的に用いる。量的データの国際比較により、生徒の学習習慣がどのように形成されるか、また日本の特異性を明らかにする。教育政策者や学校・学校外教育機関関係者のインタビューを通して、香港・上海の都市部における生徒の学校外学習時間を左右するマクロな社会的要因(教育政策や、社会の規範)とメゾレベルの要因(学校教育と学校外教育の関係)を探求する。

データを分析する際には、海外研究協力者と十分議論し、国際比較分析をとおして、東アジアにおける学校外学習をめぐる共通性と固有性が実証されるように努める。また海外の事例を鏡として、日本における学校外学習時間の格差是正のための施策や取り組みを検討する。

4. 研究成果

日本、香港、上海の都市部のデータを用い、マルチレベル SEM(構造方程式モデリング)を応用した分析から(図1参照)、以下の知見を得た(表1参照)。第一に、日本の都市部では家での学習時間の階層差が存在し、上海都市部と比べてもその程度が大きい。日本同様に学歴社会で、学校外教育投資が日本より早期に始まる香港都市部だが、学習習慣に階層差は見られない。第二に、家での学習時間に対する階層効果の大部分が通塾に媒介されるメカニズムは、日本都市部のみで見いだされた。日本都市部においては、下位階層の子どもは塾で学ぶ機会も家で学ぶ習慣もなく、二重に不利な状況が発生しているが、香港、上海都市部では通塾と学習習慣の関連は低い。第三に、通塾が家での学習時間に及ぼす効果は一部、子どもの学習に対する態度(勉強が好きか否か)に媒介される。一方、香港、上海都市部においては、子どもの学習に対する態度は家庭の経済的・文化的資本や通塾の影響を全く受けない。

質的データからは、香港、上海都市部では、小学生の学習習慣は主に学校で形成されていること、学習の必要性や教育効果に対する期待が、親の経済的文化的資本を条件とした選択ではなく、社会の規範として共有されていることが確認された。

それぞれの社会の都市部という限定された地域のデータに基づくことに留意が必要であるが、他の社会との比較から、日本の都市部における子どもの学習習慣の形成メカニズムの固有性が明らかになった。国際比較から、日本都市部におけるその後の学業達成に不可欠な学習習慣を習得していない子ど

もたちの存在を問題視し、早期の段階で丁寧
に支援していく教育施策の必要性が示唆さ
れる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (6件)

- ① 垂見裕子, 2017, 「小学生の学習習慣の形
成メカニズムー日本・香港・上海の都市
部の比較」『比較教育学研究 55号』, 東
信堂, pp. 89-110. (査読有)
- ② Nonoyama-Tarumi, Y., 2017
“Educational Achievement of Children
from Single-Mother and Single-Father
Families: The Case of Japan”, Journal
of Marriage and Family 79(4), Wiley,
pp.891-1204 (査読有)
- ③ 垂見裕子, 2015, 「香港・日本の小学校に
おける親の学校との関わりー家庭背景・
社会関係資本・学力の関連」『比較教育学
研究 51号』, 東信堂, pp.129-151. (査
読有)
- ④ Nonoyama-Tarumi, Y. and Willms, J.D.,
2015, “The Role of Family Background
and School Resources on Elementary
School Students’ Mathematics
Achievement”, Prospects 45, Springer,
pp.305-324. (査読有)

[学会発表] (計2件)

- ① 垂見裕子, 「家族構成による学力格差ー全
国学力・学習状況調査の結果から」『第
67回日本教育社会学会大会』駒澤大学・
2015年9月
- ② 垂見裕子, 「マルチレベルを用いた学校資
源が学力に及ぼす効果の国際比較ー不利
な生徒が通う学校に焦点をあてて」『第
66回日本教育社会学会大会』愛媛大学・
2014年9月

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
垂見 裕子 (Tarumi, Yuko)
武蔵大学・社会学部・教授
研究者番号：10530769

(2) 研究分担者 ()

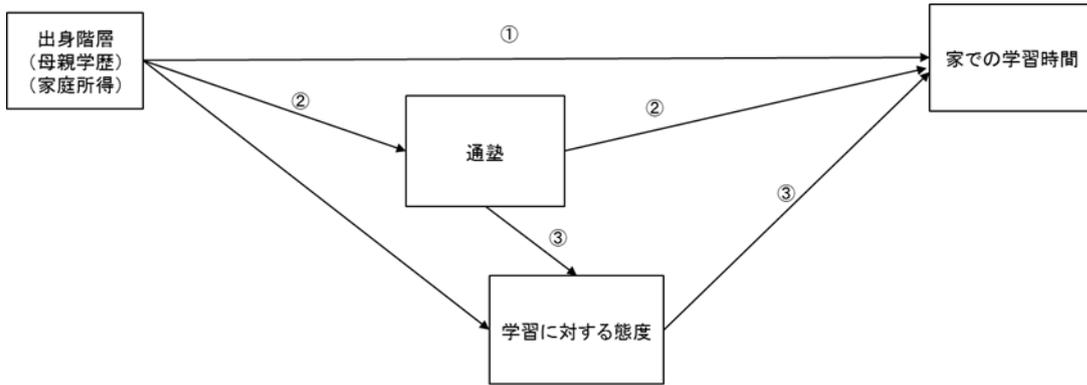
研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()

図1：分析枠組



出典) 先行研究より著者作成

表1：家での学習時間の規定要因

	日本 (n=560)			香港 (n=265)			上海 (n=796)		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
学校レベル									
切片	194.78	(20.06) ***		332.77	(67.75) ***		566.58	(23.32) ***	
児童レベル									
家での学習時間									
性別	21.56	(21.99)		-42.28	(39.94)		27.04	(25.37)	
母親学歴	11.85	(7.73)		-7.31	(7.83)		11.88	(5.92) *	
家庭所得	28.56	(3.98) ***		3.71	(7.07)		29.61	(10.84) **	
通塾	177.32	(23.66) ***		-9.49	(63.87)		17.91	(26.52)	
学習に対する態度	49.35	(8.54) ***		29.96	(14.18) *		34.20	(15.31) *	
通塾									
切片	-0.28	(0.09) **		2.63	(0.29) ***		0.02	(0.07)	
母親学歴	0.16	(0.06) **	1.18	-0.05	(0.10)	0.95	0.13	(0.03) ***	1.14
家庭所得	0.12	(0.03) ***	1.13	0.32	(0.11) **	1.38	0.12	(0.06)	1.13
学習に対する態度									
切片	-0.07	(0.08)		-0.27	(0.26)		0.07	(0.05)	
通塾	0.43	(0.12) ***		0.31	(0.28)		0.01	(0.07)	
母親学歴	0.07	(0.04)		0.00	(0.03)		0.02	(0.01)	
家庭所得	0.01	(0.02)		-0.04	(0.03)		-0.02	(0.03)	
母親学歴の間接効果									
母親学歴→通塾→家での学習時間	28.84	(11.63) *		0.45	(3.13)		2.38	(3.58)	
母親学歴→通塾→学習態度→家での学習時間	3.42	(1.71) *		-0.44	(1.00)		0.03	(0.30)	
母親学歴→学習態度→家での学習時間	3.56	(1.99)		-0.03	(1.02)		0.71	(0.58)	
家庭所得の間接効果									
家庭所得→通塾→家での学習時間	21.97	(6.40) **		-3.02	(20.37)		2.18	(3.43)	
家庭所得→通塾→学習態度→家での学習時間	2.60	(1.08) *		2.98	(3.16)		0.02	(0.27)	
家庭所得→学習態度→家での学習時間	0.67	(0.99)		-1.26	(1.08)		-0.59	(0.94)	
通塾の間接効果									
通塾→学習態度→家での学習時間	21.02	(6.82) **		9.35	(9.41)		0.19	(2.24)	
適合度指標									
AIC	9671.66			4707.26			14061.63		
サンプルサイズ調整済みBIC	9690.11			4713.81			14085.69		

*=p<.05, **=p<.01, ***=p<.001

出典) JELS2009、香港調査2010、上海調査2011を用いて、著者算出。